

令和7年度 第3回 静岡市感染症対策協議会
(令和8年3月6日(金) 19:15~20:45)

(1) 静岡市感染症予防計画について

- ・ 静岡市感染症予防計画における令和7年度の事業実績
(主な取組)

(1) 静岡市感染症予防計画の令和7年度の事業実績（主な取組）

情報収集・分析・発信

[]内は前年(R6年)度実績

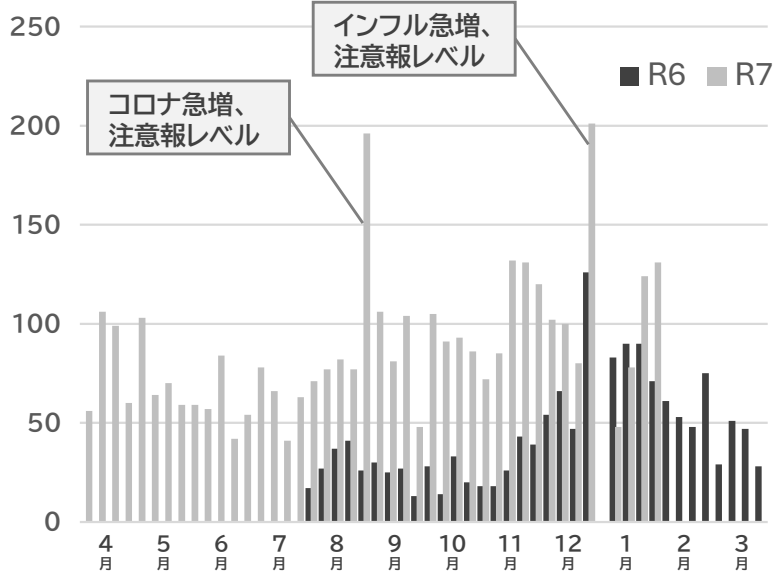
取組内容	令和7年度の実績（R8.1.31時点）	評価・課題
➤ 情報収集 ・ 感染症発生動向調査による一元的かつ迅速な情報収集 ・ 社会福祉施設等からの集団感染発生報告等による状況把握 ➤ 情報発信 ・ 市ホームページ、動画、報道機関等による情報発信 ➤ 積極的疫学調査 ・ 検体検査 ・ 患者調査 ・ 施設調査	1. 感染症発生動向調査 （1）全数把握対象感染症 ① 一類感染症：0 件 [0件] ② 二類感染症：104 件（結核） [111件] ③ 三類感染症：6 件（腸管出血性大腸菌） [4件] ④ 四類感染症：22 件（レジオネラ症、SFTSなど） [14件] ⑤ 五類感染症：423 件（百日咳、梅毒、急性脳炎など） [171件] （2）定点把握対象感染症 ①患者定点（指定医療機関数） 小児科定点（16） 急性呼吸器感染症定点（25） 眼科定点（5） 性感染症定点（3） 基幹定点（2） ②病原体定点：4 医療機関（238検体） ③注意報・警報：伝染性紅斑、新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ 2. 感染症発生動向調査に基づく情報の公表 （1）市ホームページへの掲載（週1回） （2）動画：今週の感染症予報（週1回） （3）報道提供：患者の発生（SFTS、日本紅斑熱、つつが虫病） 新型コロナウイルス感染症及びインフルエンザの注意報・警報 （4）LINE・X(旧Twitter) ：新型コロナウイルス感染症の注意報、インフルエンザの警報 （5）動画の二次元コード付きステッカーの配布 ：市内診療所、市内薬局、市内こども園など 3. 積極的疫学調査（結核を除く） （1）検体検査：242検体 [509検体] （2）患者調査：28件 [18件] （3）施設調査：7 件（嘔吐下痢、麻しん） [16件]	・ 感染症発生動向調査による情報収集を実施し、定期的に情報を公表した。インフルエンザの流行に関し、学級閉鎖の情報を新たに週報に掲載した。 ・ 必要に応じて、LINEやX(旧Twitter)にて情報提供を行った。 ・ 動画「今週の感染症予報」に関し、ステッカーを配布して動画の周知を図った。当該動画は毎週更新しており、運用から1年半ほど経過して視聴回数は徐々に増えてきている。 （課題） ➤ 情報発信 ・ 動画「今週の感染症予報」の視聴回数が増加しているがまだ少ない。感染症に関する情報を市民に対して広く伝わるよう事業を継続して視聴者を増やしていく。 （対応） ➤ 情報発信 ・ 継続性・定着性を重視した動画「今週の感染症予報」、速報性・拡散性を重視したLINEやX(旧Twitter)での情報発信を続けていく。

今週の感染症予報



情報収集・分析・発信

Youtube 動画「今週の感染症予報」



動画平均再生回数 R6:44.1回 ⇒ R7:88.0回
(R7は1/30公開分までで集計)

“バズる”動画ではなく、毎週見てもらえるよう定着性を重視した動画構成、情報量で作成

学校・施設の保健担当者や、情報感度の高い親世代などの参考になるよう、検索ワードの解析データ(※)なども基にトピックを決定

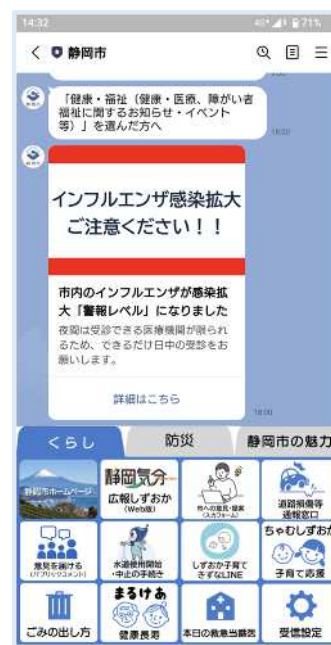


配布資材の新規作成



速報性・拡散性を重視

LINE



報道発表と同時に公式SNSで周知

X(旧Twitter)



2025年08月29日 18:00 · 5.3万 表示

271 リポスト 31 件の引用 436 いいね

21 ブックマーク

(1) 静岡市感染症予防計画の令和7年度の事業実績（主な取組）

市保健所等の体制整備・人材育成

[] 内は前年（R6年）度実績

取組内容	令和7年度の実績（R8.1.31時点）	評価・課題																														
➤ 市体制整備 ・ 新興感染症の流行初期における保健所の人員確保 ・ IHEAT要員の確保 ・ 感染症の検査能力・検査機器の確保 ➤ 人材育成 ・ 感染症対応に関する保健所職員への研修の実施 ・ 国や県主催の専門的な研修・訓練への参加 ・ 県等と連携したIHEAT研修の実施	市保健所の体制やIHEAT要員による保健所支援体制を整備するとともに、保健所職員等の感染症対応力の向上を図った。 1. 検査能力及び検査機器確保（市環境保健研究所） 市環境保健研究所で設置している検査機器数：最大検査能力数（84件/日）に対し必要台数3台 2. 保健所の体制整備及び人材育成 （1）新興感染症の流行初期に想定される業務量を想定した人員確保数：54人（目標54人） （2）HEAT要員の確保：市内登録者数12人（うちR7新登録5人）（目標12人） ※IHEATとは：令和4年12月の感染症法改正に伴い、新型インフルエンザ等発生時等に保健所業務を補完するため潜在保健師等を派遣する仕組み （3）非常勤医師の確保：2人〔1人〕 ≪保健所職員等の人材育成の実績≫ ①研修等の企画実施【新規】延べ683人参加〔10人〕 <table><tr><th></th><th>研修名</th><th>内 容</th><th>実施日等</th><th>参加人数</th></tr><tr><td>1</td><td>感染症対策研修</td><td>・ 新型コロナ対応振り返り ・ 予防計画等の概要</td><td>10/20・21・23 保健福祉複合棟</td><td>保健所・環境保健研究所職員：80人</td></tr><tr><td>2</td><td>感染症対策の基礎知識（エスナビ研修）</td><td>・ 感染対策の必要性 ・ 感染予防対策 など</td><td>11/26～12/24 期間中に受講</td><td>局内職員及び庁内保健師等：450人</td></tr><tr><td>3</td><td>実践型研修1（③環境保健研究所と合同）</td><td>①防護服着脱訓練 ②患者搬送訓練 ③検体搬送訓練（検体受け渡し、飛散時対応等）</td><td>①12/16 ②12/19 保健所棟等 ③11/2 環境保健研究所</td><td>①②保健所・消防局・環境保健研究所職員 ③保健所・環境保健研究所職員 ①12人②14人③13人</td></tr><tr><td>4</td><td>実践型研修1（保健師研修会と合同）</td><td>・ 予防計画等の概要 ・ 積極的疫学調査の演習</td><td>R8.1/26 保健福祉複合棟</td><td>庁内保健師：102人 IHEAT市内登録者：4人</td></tr><tr><td>5</td><td>感染症リスクアセスメント研修（県との共催）</td><td>・ 感染症危機管理のためのリスクマネジメント</td><td>12/22 グランシップ</td><td>保健所職員：4人 IHEAT市内登録者：4人</td></tr></table> ②感染症等の合同カンファレンスへの参加 ・ 市内病院、医師会、外来感染対策向上加算取得医療機関、市保健所が参加し、訓練及び感染症対策の情報共有、意見交換 （7/2、9/4、12/3：保健所他課を含む市職員延べ29人参加）※3/5：8人参加予定〔41人〕 ③その他感染症対策に関する外部研修への参加 市職員延べ62人参加〔34人〕		研修名	内 容	実施日等	参加人数	1	感染症対策研修	・ 新型コロナ対応振り返り ・ 予防計画等の概要	10/20・21・23 保健福祉複合棟	保健所・環境保健研究所職員：80人	2	感染症対策の基礎知識（エスナビ研修）	・ 感染対策の必要性 ・ 感染予防対策 など	11/26～12/24 期間中に受講	局内職員及び庁内保健師等：450人	3	実践型研修1（③環境保健研究所と合同）	①防護服着脱訓練 ②患者搬送訓練 ③検体搬送訓練（検体受け渡し、飛散時対応等）	①12/16 ②12/19 保健所棟等 ③11/2 環境保健研究所	①②保健所・消防局・環境保健研究所職員 ③保健所・環境保健研究所職員 ①12人②14人③13人	4	実践型研修1（保健師研修会と合同）	・ 予防計画等の概要 ・ 積極的疫学調査の演習	R8.1/26 保健福祉複合棟	庁内保健師：102人 IHEAT市内登録者：4人	5	感染症リスクアセスメント研修（県との共催）	・ 感染症危機管理のためのリスクマネジメント	12/22 グランシップ	保健所職員：4人 IHEAT市内登録者：4人	・ 必要時に稼働できる検査機器の体制は維持できている。 ・ 感染症流行初期時に迅速に有事の体制に切り替えられるように、様々な研修・訓練を行い、業務の流れをイメージできる機会を提供できた。 （課題） ➤ 人材育成 職員の人事異動があっても対応力が維持できるよう、年1回以上、研修・訓練を行い、感染症対応に従事できる職員等を確保していく必要がある。 （対応） 新興感染症発生時に速やかに対応できるように、研修や訓練を活用しながら、対応マニュアル等を整備し、体制強化を図っていく。また、IHEAT要員を確保するために、登録の周知を継続し、研修内容を充実させる。
	研修名	内 容	実施日等	参加人数																												
1	感染症対策研修	・ 新型コロナ対応振り返り ・ 予防計画等の概要	10/20・21・23 保健福祉複合棟	保健所・環境保健研究所職員：80人																												
2	感染症対策の基礎知識（エスナビ研修）	・ 感染対策の必要性 ・ 感染予防対策 など	11/26～12/24 期間中に受講	局内職員及び庁内保健師等：450人																												
3	実践型研修1（③環境保健研究所と合同）	①防護服着脱訓練 ②患者搬送訓練 ③検体搬送訓練（検体受け渡し、飛散時対応等）	①12/16 ②12/19 保健所棟等 ③11/2 環境保健研究所	①②保健所・消防局・環境保健研究所職員 ③保健所・環境保健研究所職員 ①12人②14人③13人																												
4	実践型研修1（保健師研修会と合同）	・ 予防計画等の概要 ・ 積極的疫学調査の演習	R8.1/26 保健福祉複合棟	庁内保健師：102人 IHEAT市内登録者：4人																												
5	感染症リスクアセスメント研修（県との共催）	・ 感染症危機管理のためのリスクマネジメント	12/22 グランシップ	保健所職員：4人 IHEAT市内登録者：4人																												

3

(1) 静岡市感染症予防計画の令和7年度の事業実績（主な取組）

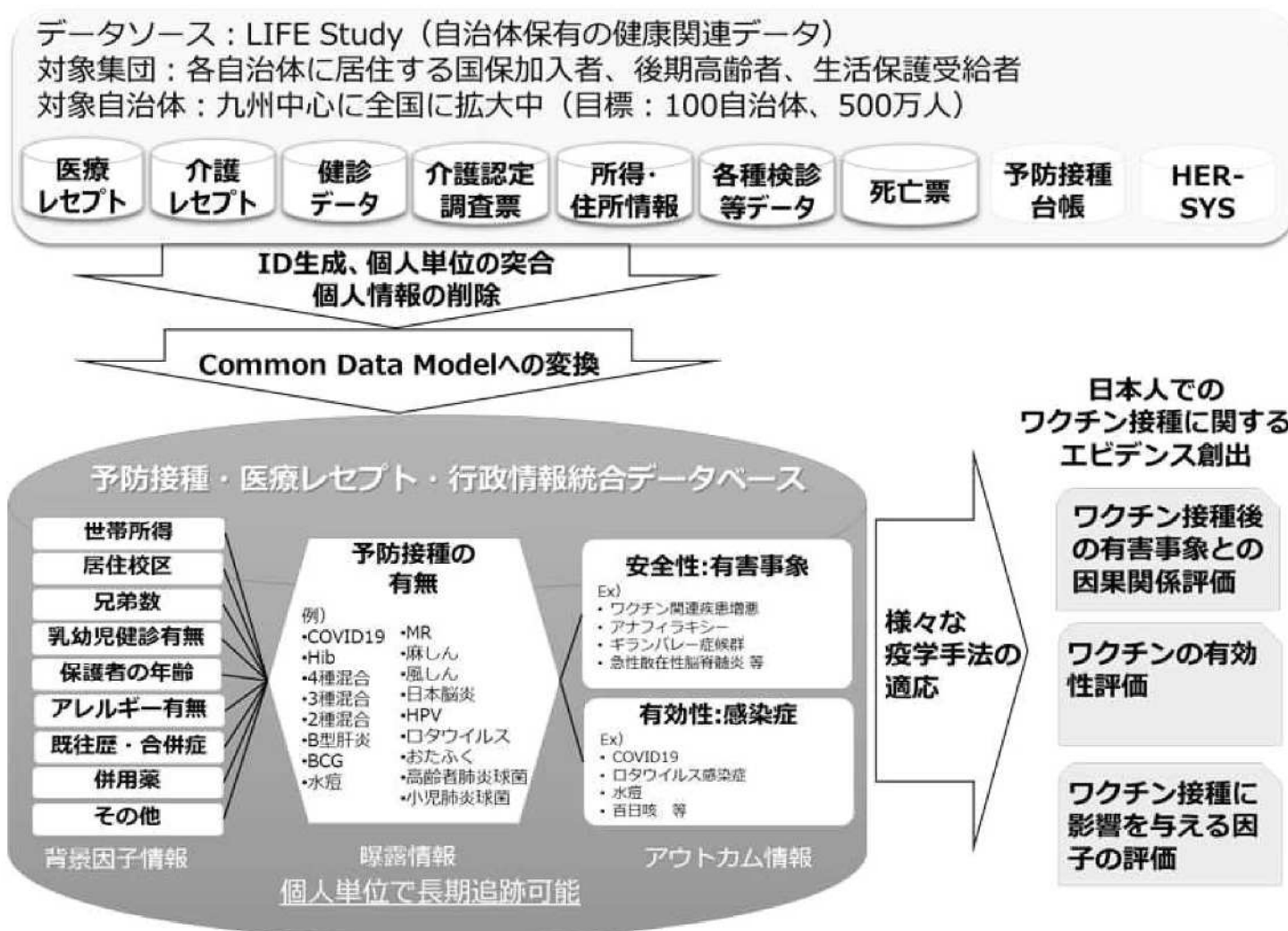
予防接種施策の推進

[]内は前年(R6年)度実績

取組内容	令和7年度の実績（R8.1.31時点）	評価・課題												
➤ 予防接種業務の推進 ・ 予防接種の推進に係る関係機関等との連携・協力 ・ ワクチン接種の有効性・安全性、ワクチンに関する正しい知識の普及に向けた情報発信 ➤ ワクチン等の有効性等に関するモニタリングの実施 ・ 九州大学と連携した予防接種施策の推進	1. 接種の状況 (1) HPVワクチン接種の状況 <table><tr><th></th><th>1回目</th><th>2回目</th><th>3回目</th></tr><tr><td>定期接種</td><td><u>1回目9.5%</u> [21.1%]</td><td><u>2回目10.1%</u> [17.6%]</td><td><u>3回目2.3%</u> [6.8%]</td></tr><tr><td>キャッチアップ</td><td><u>1回目0%</u> [21.8%]</td><td><u>2回目3.1%</u> [19.3%]</td><td><u>3回目4.2%</u> [17.7%]</td></tr></table> 定期接種 接種率（%）＝定期接種対象者の接種者数／定期接種対象者人口 キャッチアップ（CU） 接種率（%）＝CU対象者の接種者数/CU対象者人口 (2) 新型コロナウイルスワクチン接種の状況（65歳以上） 定期接種<u>9,554人</u>[30,334人] 接種率：<u>4.56%</u> (3) 带状疱疹ワクチン（助成制度）接種の状況（50歳以上）[]内の期間はR6.10～R7.3 接種回数 <u>10,060回</u>（内訳：1回目5,119回、2回目4,941回）[15,936回] 申込者数 <u>5,590人</u> [11,650人] 2. 周知啓発 ・ ワクチンの安全性・有効性や健康被害について正しく理解していただくため、広報誌や市ホームページ、動画など各接種対象者に情報が届く媒体で周知を行った。 ・ HPVワクチン対象者には市立小中高校等の接種対象者及び保護者に対し、学校を通じて案内チラシやリーフレットで周知したほか、対象者4,162人に接種勧奨通知の個別送付を行った。また、R7年度キャッチアップ経過措置延長に伴い、対象の接種未完了者2,147人に改めて接種勧奨を送付した。 ・ R6年度に開始した带状疱疹助成制度、新型コロナワクチン接種の対象者には、主に高齢者への周知として組回覧やラジオ、各公共施設でチラシ配架を行った。		1回目	2回目	3回目	定期接種	<u>1回目9.5%</u> [21.1%]	<u>2回目10.1%</u> [17.6%]	<u>3回目2.3%</u> [6.8%]	キャッチアップ	<u>1回目0%</u> [21.8%]	<u>2回目3.1%</u> [19.3%]	<u>3回目4.2%</u> [17.7%]	各ワクチンの対象にあわせた様々な媒体を活用し周知を行ったが、昨年度を下回る接種率となった。 （課題） 特に子どもの定期接種対象者は、自分で接種の必要性を判断することが難しいと思われるため、保護者を含め、正しい情報を分かりやすく伝えることが必要である。高齢者への周知では、チラシを見ての問い合わせ対応が多い傾向にある。 （対応） 今後も様々な広報媒体を活用し、周知啓発を図り、接種を希望する方が確実に接種できるよう周知を継続していく。HPVでは、引き続き市立・私立の小中高校の定期接種対象者・保護者にも情報を周知すること、高齢者に向けては多くの問い合わせのある内容をチラシに反映させるなど、更なる接種率の向上につなげていく。
	1回目	2回目	3回目											
定期接種	<u>1回目9.5%</u> [21.1%]	<u>2回目10.1%</u> [17.6%]	<u>3回目2.3%</u> [6.8%]											
キャッチアップ	<u>1回目0%</u> [21.8%]	<u>2回目3.1%</u> [19.3%]	<u>3回目4.2%</u> [17.7%]											

4

九州大学が実施しているLIFE Studyが母体となり、自治体から直接収集した医療レセプトデータ等と予防接種台帳やHER-SYSをリンケージし、個人情報情報を削除し、研究解析用データセットに加工したデータベースを開発します。さらに、このデータベースを用いて、ワクチンの有効性と安全性に関するエビデンスを創出します。



令和8年度の予防接種事業（新規・変更点）

- 1 【新規】RSウイルス母子免疫ワクチンのA類定期接種化（4月1日～）
 - ▶対象者は、妊娠28週から36週までの妊婦（妊娠ごとに1回接種可能）
 - ▶接種券は発行せず、直接医療機関での接種（自己負担なし）。
 - ▶対象市民に向けた周知状況
 - ・産科と産婦人科を標榜する医療機関に対して令和7年12月下旬からの周知ポスター掲出を依頼。
 - ・令和8年1月以降に母子健康手帳を発行する妊婦に「制度案内チラシ」を配布開始。
 - ・市ホームページにて情報発信し、広報紙「静岡気分」3月号に掲載。
- 2 【変更】HPVワクチンが9価ワクチンに統一（4月1日～）、キャッチアップ経過措置終了（3月31日）
 - ▶これまで2価、4価、9価と混在していた定期接種対象ワクチンが、9価のみになり、2価、4価ワクチンは定期接種対象外となる。既に「2価・4価」を接種済の方が4月1日以降に「9価」を接種する場合の対応は、現行と変更ない。
 - ▶キャッチアップ世代の経過措置は3月末をもって終了する予定です。
- 3 【変更】高齢者肺炎球菌ワクチン種類の変更（4月1日～）
 - ▶定期接種で使用するワクチンが現行のPPSV23からPCV20に変更となり、PPSV23は4月1日以降、定期接種対象外となる。
- 4 【変更】高齢者インフルエンザワクチン種類の追加（10月1日～）
 - ▶これまでの標準量インフルエンザワクチンに加え、75歳以上を対象に高用量インフルエンザワクチンが追加され、75歳以上の被接種者はいずれかのワクチンを選択可能となる。

(1) 静岡市感染症予防計画の令和7年度の事業実績（主な取組）

特に総合的に予防対策を推進すべき感染症対策 ＜結核対策＞

[]内は前年(R6年)度実績

取組内容	令和7年度の実績（R8.1.31時点）	評価・課題																											
➤ 結核予防の推進及びまん延防止 ・ 住民検診、DOTS支援等による結核のまん延防止及び早期発見 ➤ 多剤耐性結核への対策 ・ 多剤耐性結核患者確認時の県及び医療機関との情報共有	○市内では、令和7年度1月末時点で結核患者として新たに66人〔60人〕が登録され、その内24人〔21人〕が喀痰塗抹陽性者（感染性のある結核）だった。潜在性結核感染症の登録は37人〔42人〕である。 1. DOTS（直接服薬確認療法※1）実施状況 ・ 実施者：152人〔150人〕（継続率100%）（副作用などにより服薬を継続できない特別な事由を除く） ※1患者の確実な治療完遂のため、患者の治療中断リスク・背景・環境等を考慮し、患者と相談の上、本人にとって最も適切かつ確実な服薬確認の頻度と方法を考慮した「個別患者支援計画」を策定している。その計画に基づいて服薬支援を訪問や電話等で月1回以上行っている。 2. 結核患者接触者健康診断※2実施状況 ・ 対象者：381人〔437人〕（実施率100%） ※2感染性のある結核患者と接触があった者より対象を選定し、発病前の潜在性結核感染症の早期発見、新たな発病者の早期発見、感染源・感染経路の探求のため実施している。 <table><tr><th>接触者健康診断の 検査内容</th><th>R6年度 実施者数(延)</th><th>R7年度 実施者数(延)</th></tr><tr><td>IGRA（血液）検査</td><td>592</td><td>340</td></tr><tr><td>胸部レントゲン検査</td><td>73</td><td>78</td></tr><tr><td>ツベルクリン検査</td><td>3</td><td>2</td></tr><tr><td>喀痰検査</td><td>59</td><td>23</td></tr></table> ➡ <table><tr><th>接触者健康診断後の 区分</th><th>R6年度 被発見者数(実)</th><th>R7年度 被発見者数(実)</th></tr><tr><td>結核患者</td><td>6</td><td>3</td></tr><tr><td>潜在性結核感染者</td><td>27</td><td>17</td></tr><tr><td>結核発病のおそれがあると診断された者</td><td>36</td><td>33</td></tr></table> 3. 結核定期健康診断等実施状況 (1) 受診率 事業者※3：96.7%〔94.7%〕、学校長※4：97.1%〔99.4%〕、施設長※5：96.6%〔95%〕、市長※6：16.3%〔17.6%〕 （感染症法施行令第12条第1項第1号(※3)・第2号(※4)・第3号及び4号(※5)、第2項(※6)による数） (2) 胸部レントゲン検診(結核・肺がん検診)実施状況（市長※6実施分）（健康づくり推進課） 受検者数：40,506人(内65歳以上35,249人)〔45,829人（内65歳以上38,154人）〕 実施方法：巡回車(延べ529回)及び診療所12か所〔巡回車（延べ510回）及び診療所12か所〕 4. 結核の普及啓発 ・ 結核は、集団生活を営む場で感染するケースが多いため、高齢者施設の管理者に対し、利用者に定期的な健康診断の実施、その後の精密検査等の適切な受診勧奨を実施するよう呼びかけた。 ・ 【新規】集団感染となった施設において、教職員73人に対し結核の予防についての講義を行った。また、学生に対しては、感染症予防の動画を作成し講義内で1,678人に視聴してもらい予防を呼び掛けた。 ・ 市内においては全国と同様に若年層に占める外国出生者の結核患者が多いことから、外国出生者が多く在籍する学校 6校〔1校〕へ、結核の周知啓発及び健康教育の案内を実施した。	接触者健康診断の 検査内容	R6年度 実施者数(延)	R7年度 実施者数(延)	IGRA（血液）検査	592	340	胸部レントゲン検査	73	78	ツベルクリン検査	3	2	喀痰検査	59	23	接触者健康診断後の 区分	R6年度 被発見者数(実)	R7年度 被発見者数(実)	結核患者	6	3	潜在性結核感染者	27	17	結核発病のおそれがあると診断された者	36	33	・ DOTSによる服薬支援を100%実施できた。 ・ R6年度は10年ぶりの結核集団感染発生により、接触者健康診断実施者数及び被発見者数が大幅に増加したが、R7は減少傾向にある。対象者へ個別に受診勧奨を行ったことで健診実施率は100%である。 （課題・対応） 高齢者施設や外国出生者が多く在籍する学校は結核感染のリスクが高いため、リスクが高い施設等に対し、定期健康診断の実施、その後の精密検査等の適切な受診勧奨を行うよう呼びかけを強化していく。
接触者健康診断の 検査内容	R6年度 実施者数(延)	R7年度 実施者数(延)																											
IGRA（血液）検査	592	340																											
胸部レントゲン検査	73	78																											
ツベルクリン検査	3	2																											
喀痰検査	59	23																											
接触者健康診断後の 区分	R6年度 被発見者数(実)	R7年度 被発見者数(実)																											
結核患者	6	3																											
潜在性結核感染者	27	17																											
結核発病のおそれがあると診断された者	36	33																											

(1) 静岡市感染症予防計画の令和7年度の事業実績（主な取組）

特に総合的に予防対策を推進すべき感染症対策 <HIV/エイズ・性感染症対策>

[]内は前年(R6年)度実績

取組内容	令和7年度の実績（R8.1.31時点）	評価・課題																													
➤ 早期発見と相談・指導体制の充実 ・ 無料、匿名検査の実施による早期発見及び早期治療 ・ 相談対応職員の資質向上 ➤ 正しい知識の普及啓発 ・ 偏見や差別のない社会づくり	○全国の令和6年の新規HIV感染者(a)は662人〔669人〕（県18人〔13人〕）、新規エイズ患者(b)は332人〔291人〕（県9人〔4人〕）で、aとbを合わせた新規報告数に占めるbの割合は33.4%（過去20年間で最も高い値）となっている。また、梅毒の新規感染者数は14,829人〔15,055人〕（県352人〔333人〕）、市90人〔79人〕）となっている。〔 〕内は令和5年度実績 1. エイズ・性感染症検査の実施状況 ・月1回実施（4～1月で10回、年12回実施予定） <table><tr><th>定例検査項目</th><th colspan="2">HIV</th><th colspan="2">梅毒</th><th colspan="2">クラミジア</th></tr><tr><th>※延べ件数</th><th>受検者</th><th>陽性者</th><th>受検者</th><th>陽性者</th><th>受検者</th><th>陽性者</th></tr><tr><td>R7（4月～R8.1月）</td><td>193 [269]</td><td>0 [0]</td><td>192 [263]</td><td>16 [2]</td><td>43 [99]</td><td>1 [1]</td></tr></table> ・ エイズ相談（随時）件数（R7.4～R8.1月末）： 電話28件 [59件] 面談4件 [3件] 2. 外部機関実施の研修会等への参加状況 ・ 感染症対策新任担当者研修会（静岡県主催）（6/7 3人参加） [1人] ・ HIV検査相談研修会1人（8/21～8/22 1人参加） [1人] ・ 東海ブロック都道府県・エイズ治療拠点病院等連絡会議等(10/6、12/8 各1人参加） [1人] 3. 正しい知識の普及啓発 （1） 青少年へのエイズ・性感染症予防講座（依頼に応じて実施） ・ 静岡少年鑑別所（R7.4～R8.1月末）： 8回、延べ8人 [10回、延べ10人] （2） 世界エイズデー（12月1日）にあわせた大学等でのエイズ予防普及啓発 <table><tr><td>エイズ予防啓発キャンパスキャンペーン</td><td>市内大学4か所＊ [4か所]</td></tr><tr><td>【新規】エイズ予防啓発掲示シール（左記）・トイレットペーパー（学生によるデザイン）の設置</td><td>市内大学8か所 [13か所]、各区役所・静岡市保健所</td></tr><tr><td>保健所敷地内にのぼり旗掲揚、公用車へのマグネット貼付</td><td>静岡市保健所内各課</td></tr><tr><td>世界エイズデーポスター掲示</td><td>市立小中高等学校120校 [120校]</td></tr></table> 4. 【新規】市民へのエイズに対する意識調査（上記＊市内大学4か所で実施）回答者31人 HIV/エイズの認知度90%、エイズに対し偏見を持っている人が59%、HIVの検査で受検しやすいものとして自己検査キットでの検査を選んだ方が45%を占め最も多かった。	定例検査項目	HIV		梅毒		クラミジア		※延べ件数	受検者	陽性者	受検者	陽性者	受検者	陽性者	R7（4月～R8.1月）	193 [269]	0 [0]	192 [263]	16 [2]	43 [99]	1 [1]	エイズ予防啓発キャンパスキャンペーン	市内大学4か所＊ [4か所]	【新規】エイズ予防啓発掲示シール（左記）・トイレットペーパー（学生によるデザイン）の設置	市内大学8か所 [13か所]、各区役所・静岡市保健所	保健所敷地内にのぼり旗掲揚、公用車へのマグネット貼付	静岡市保健所内各課	世界エイズデーポスター掲示	市立小中高等学校120校 [120校]	➤ 早期発見と相談・指導体制の充実 ・ 受検者数が減少しているが、検査希望者への検査は100%実施できた。随時相談件数は横ばいである。 ・ 世界エイズデーでアンケートを実施し、エイズ検査の方法で郵送検査に関するニーズがあることがわかった。 ➤ 正しい知識の普及啓発 ・ エイズ・性感染症予防講座は依頼に応じて100%実施できた 世界エイズデーにあわせて、市内大学等でエイズ予防等の普及を行うことができた。 （課題・対応） エイズ・性感染症検査を受けやすいよう来年度は、6月に郵送検査を実施する。 市の梅毒新規感染者数が増加しているため、エイズと合わせ梅毒に関しても正しい知識の普及・予防啓発を行っていく。
定例検査項目	HIV		梅毒		クラミジア																										
※延べ件数	受検者	陽性者	受検者	陽性者	受検者	陽性者																									
R7（4月～R8.1月）	193 [269]	0 [0]	192 [263]	16 [2]	43 [99]	1 [1]																									
エイズ予防啓発キャンパスキャンペーン	市内大学4か所＊ [4か所]																														
【新規】エイズ予防啓発掲示シール（左記）・トイレットペーパー（学生によるデザイン）の設置	市内大学8か所 [13か所]、各区役所・静岡市保健所																														
保健所敷地内にのぼり旗掲揚、公用車へのマグネット貼付	静岡市保健所内各課																														
世界エイズデーポスター掲示	市立小中高等学校120校 [120校]																														



8



(1) 静岡市感染症予防計画の令和7年度の事業実績（主な取組）

特に総合的に予防対策を推進すべき感染症対策 <麻しん・風しん対策>

[]内は前年(R6年)度実績

取組内容	令和7年度の状況（R8.1.31時点）	評価・課題
➤ 予防の推進 - 教育関係部局と連携した積極的な予防接種の推進 - 妊娠希望女性等への風しん抗体検査及び予防接種の実施 ➤ 患者発生時の感染拡大防止 - 積極的疫学調査及び市民や医療機関と連携した感染拡大防止	1. 予防の推進 乳幼児や妊娠希望女性等への予防接種を推進することで、麻しん・風しんの発生及びまん延防止を図る (1) 先天性風しん症候群（CRS）予防のための風しん抗体検査実施状況 - 対象：妊娠希望女性とそのパートナー及び妊婦の同居家族 実施者数：617人 [令和6年度実績645人] (2) CRS予防のための風しん予防接種実施状況 - 対象：H26.4.1以降の抗体検査の結果抗体価不十分な方 実施者数：695人、抗体検査受検者数に対する割合112.6% (令和6年度実績694人、抗体検査受検者数に対する割合107.6%) (3) 予防接種状況（1期：1歳～2歳未満、2期：小学校就学前の1年間） <接種率> R7年度接種率：1期81.0%、2期77.1% R6年度接種率：1期93.2%、2期87.1% <接種勧奨> - 個別勧奨通知による接種勧奨（1期：出生後、2期：小学校就学前） - 市内保育施設での接種勧奨チラシの掲出（2期：小学校就学前） 2. 患者発生時の感染拡大防止 (1) 医療機関と連携した疑い症例の検査 ・疑い患者の検体採取及び市環境保健研究所での検査：32検体(11例) [42検体(14例)] (2) 感染拡大防止策等についての情報発信 - 市ホームページにより麻しん・風しんの症状、感染拡大防止策等を情報発信 - 麻しん患者の本市来訪について報道提供	- 各種予防施策を推進し、患者の発生はなかった。 - CRS予防のための風しん予防接種数、接種割合ともに増加した。 1期接種率、2期接種率ともに前年度比と同等になると見込む。 （課題・対応） CRS予防のための風しん抗体検査を希望する対象者において、確実に検査を実施できるよう、今後も周知啓発を行う。